



文庫抄  
藤原朝経

1巻  
600  
165







甲列天目山樓雲寺十境詩歌

詩 開山業海本淨禪師

歌 武田安藝守信滿公

龍門瀑

石翁筆勢活如龍

晉在龍門第一重





只恐青天車轉霹靂

掀翻羽瀑雨千峯

石人山泉の如く流るる  
滝の急下流の峯

雷田關峽

壁破巍々萬仞崖

玉龍倒掛聞風雷

虚空躑躅山河走

散沫飛成白雲來

鳴雷の如く風も疾く

峰の急下流の峯

山神庙

折言向山門護佛衆

古祠尚在白雲層



莫將北樹移東嶺

驚動那伽定禪僧

のふ 栖むも 毎久し 法の心  
折る 少く 作けの 跡

飛猿嶺

西嶺欄楯輕似飛

幾回摘葉又尋枝

有時睡著樵牛緣已忘

石上藤蘿羅月半規

西の海さるる 枝の 葉さるる

を ちり ちり ちり ちり

梵音洞



清溪流出梵之音聲

石耳峯高側耳聽

一句當機劈竹前急

不分序正是何經

谷深一水名之曰江のち

三十七とよむとのりてきや

### 金剛山屈

移來海外五臺山

石山屈潛通雲氣寒

始識文殊具境界

翻自直入裡頭著

今此山をみるのとき

山

人よみて



忿怒岩

怒石千尋接地輪

北鮮痕帶得却初春

寒毛卓豎望崖退

突兀橫空猶趁人

苔深

谷一上のん

あゆむ

はる

天目井

鑿金破雲根衆眼通

汲之不竭涌無定

西天目頂寶沉水

一脉扶桑東復東

日本に流しし水は







白雲片々 碧石層々

如 身 如 法 之 身 如 法

何 事 亦 不 有 人

武田信玄公御籠之文

南無諏方南宮法性上下大明神

疾如風 徐如林 侵

掠如火 不動如山

并 御馬添



武田晴信太郎信玄公

天正九年  
指部前田外太



武田晴信太郎信玄公

高橋元忠

武田晴信太郎信玄公



如光院ハ

法性院大僧正信玄之墓

大泉寺本像の名称牌ハ

天正元年西四月十二日

指指館前甲外大守惠林寺殿機山

玄玄大居士

武田晴信太郎信玄公





天正十年二月十日

指館 甲州大守 景德院殿 賴山勝公

武田四郎勝頼公神儀大禱定門

瀧澤文庫



